

第 16 回学会報告記 (TCT conference 2015)

TCT conference 2015 が 10 月 11～15 日にアメリカのサンフランシスコで開催されました。本学会は、循環器内科、血管外科、放射線科など全身血管のインターベンションに関わる医師が中心となった年 1 回行われる米国最大規模の学会です。今回、飯田、南都、白記の 3 名が参加致しました。



発表

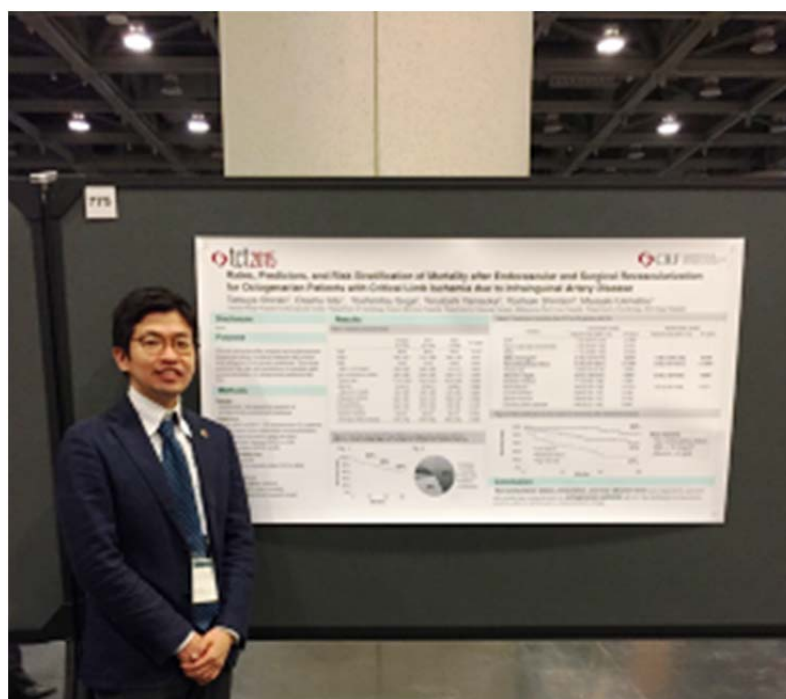
口術発表

飯田 修【重症虚血肢診療における Angiosome 概念の有用性】



ポスター発表

白記 達也 【80 歳以上の重症虚血肢有する患者の予後予測因子の検討】



上記 2 つの演題を発表して参りました。

海外学会参加の良い点として、海外の参加者と意見交換をできること、本邦未承認のデバイスについての情報を得る事が出来ること、また未公開の臨床研究データを生で確認できることが挙げられます。

まとめ

今回、今後日本にも導入が期待される心臓循環補助装置の展示があり実物を手に取り確認することができました。また、日本では未承認のインターベンションデバイスとして冠動脈領域では生体吸収ステント、近頃日本で発売となった新しい薬物溶出性ステント、末梢動脈領域では薬物溶出性バルーンの臨床成績が公開となり、いずれも有用性が示唆されていました。

この経験を生かし、より良い診療に努めて参りたいと思います。

